

姫路城 昭和の堀普請



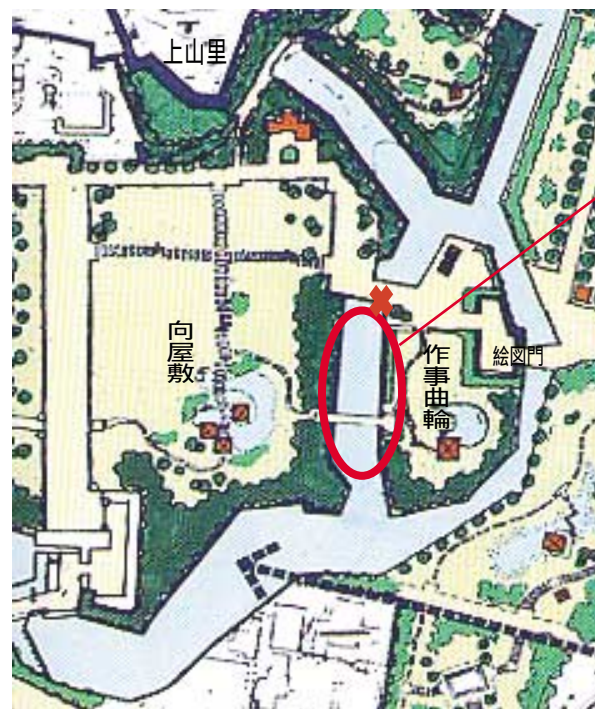
かつて姫路城の三の丸および作事曲輪のあったエリアは、現在、姫路市立動物園となっています。『特別史跡姫路城跡整備基本構想』（姫路市姫路城周辺整備室、1986年）には、「作事場がちょうど真ん中にある。ですから城周辺整備の中で一番目玉になるといいますが、城の引き立て役になる部分の整備事業の中にありまして、動物園を移さないで整備というのが本当の整備にならないんじゃないかと思えます」（107頁）との発言が記録されています。この『構想』には、城周辺整備における動物園の移転について具体的なことは記載されていませんが、このエリアの扱いが整備の成功の鍵を握っていることについては認識されています。

ところで「姫路城昭和の修理」では、国宝などの歴史的建築物の根本修理だけが行われたわけではありません。公式的な記録として残っていないため、今となってはわからなくなりますが、以前紹介した井戸曲輪下の高石垣解体修理（本ニュースNo.21参照）のような大規模な土木工事も行われていたことは忘れてはなりません。

「昭和の修理」も終末期の昭和38（1963）年、動物園内では内堀の復元工事が行われました。軍施設建設などで埋められていた三の丸の東端と作事曲輪を画していた堀です。この内堀復元は文化財保護委員会によるものではなく、姫路市による工事だった点が注目されます。「昭和の修理」完成を目前にして、姫路城の整備を本格的に進めようとしていたことが窺えます。

このニュースでは、当時の内堀復元工事の様子を紹介します。

内堀復元の工事区全景（南から北を見る）。修理を終えた大天守が姿を現し始めた。ボンネットトラックが懐かしい。堀の北面に石垣が残存しているのがわかる。これは三の丸と作事曲輪をつなぐ土橋に相当する。



工事された内堀（上が北）
（カラー図版は『特別史跡姫路城跡整備基本構想』から）



堀の東側に残っていた石垣の一部。人の立って作業しているあたりには石垣はなかったようだ。前頁写真の左下に大量の石材が積み上げられているが、これらは堀を埋めるために崩された石垣の積石かもしれない。

埋め土を掘り出しているところ（北から南を見る）。パワーショベルの上に見える屋根は、姫路護国神社である。平成8（1996）年に発見された「極楽寺瓦経」は、この工事区のすぐ南から出土したことになる。昭和38年度の工事で破片の1枚くらい発見されなかったのだろうか。

北側の石垣中から出土した暗渠の遺構（上記のカラー図版のx印の箇所）。絵図門と菊門をつなぐ土橋の下に埋設されていた通水溝とみられる。

参考；『特別史跡姫路城跡整備基本構想』（姫路市姫路城周辺整備室、1986年）。

「400年の時空を超えて」と壮大な副題のついたこの報告は、図書館でも閲覧できます（L10-51-7）。

